

東京バッハ合唱団 月報

[第 739 号] 2024 年 1 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.739

January 2024

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

2024 年、新年はどんな年に？

大村 恵美子 (東京バッハ合唱団 主宰者)

このタイトルには、「どんな年になるのか?」、あるいは、「どんな年にしていこうか?」の二とおりの中味があります。

もちろん、後者にしなければならないでしょう。当たり前前のつもりで暮らしていると、「あの街で戦争が始まった」、「あの地域で交渉が決裂して、両国間が不通になった」など、またまたがっかりするニュース。

どうして、われわれ“人間”って、穏やかな顔を向け合い、手を取り合って、豊かに満ち足りた気持ちで、つき合い、暮らせないのか?

間もなく新しい年を迎えるのだが、地球上どこでも殺し合いなんかのない、仲良しばかりの、楽しい「住処 (すみか)」にしてみようという強い決意・努力を、まず、今にも!

未成熟の子供ばかりでなく、ちゃんと教育を受けてきたはずの“おとな”たちが、どうしていつまでも、殺し合いのバカ騒ぎを、徹底的に止められないのか? “人間”とは、同じ仲間同士が殺し合う、愚かな動物——。

今年こそ、こんな情けない状態を抜け出て、何とかして、お互いを尊重して生き続けることに集中してみようではないか。

年頭というのに、つまらない提案を、と一蹴しないで、これを第一に、心を注いでみませんか?



■小海牧師の挨拶で開幕。席からはみ出した団員が後方に立っている。
(2023 年 12 月 2 日, 荻窪教会。写真提供: 松尾茂春さん)

シングイン 2023、好評裡に終了

《マニフィカト》(聖母マリアの讃歌) と
《クリスマス・オラトリオ》から 合唱部分

3 年目となった年末のシングイン。今回も荻窪教会、三崎町教会(神田三崎町)の両会場をご提供いただき、2 週連続の開催となりました。

荻窪(12 月 2 日)は 50 席準備した会場に 44 名、三崎町(12 月 9 日)は 100 名の想定に対して 90 名と、用意した資料がギリギリの入場者数で、みなさま大いに楽しんでくださったご様子。ご参加の方々、両教会の関係者の方々、ありがとうございました。

三崎町会場の模様は、ユーチューブにアップしてあります。ぜひ覗いてみてください。

<https://youtu.be/JU7iMYCsvjc>

☆

和やかな雰囲気の中での楽しい時間

七戸 仁、佳子

今日(12/2)は、お声をかけていただき、ありがとうございました。シングインは初めてで、いい経験をさせていただきました。

前半はなかなかついていけませんでした。後半は少しずつ歌えるようになりました♪ 和やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。(団員へのメール)



■富士山と梅
(富士市岩木山公園)
撮影・千葉光雄
2021/2/17



■白馬岩岳からの
雪景色(長野県白馬)
撮影・千葉光雄
2020/2/4

月報 2024 年 1 月号 CONTENTS

- ・シングイン感想(七戸仁・佳子) / (大野佑介) p. 1, 2
- ・バッハカンタータの情景《とどまれ 我らと》p. 2, 3
- ・連載: 退屈するのはいそがしい [35] (大野博人) p. 4

バッハ・カンタータの場景 №16

大村 健二 (団員)

カンタータ第6番《とどまれ 我らと》

Bleib bei uns, denn es will Abend werden BWV 6



■オーケストラ：ARS の面々、オルガン：田尻明葉さん。荻窪会場では全員平服で。(2023年12月2日、荻窪教会。写真提供：松尾茂春さん)

☆

東京バッハ合唱団を初めて聴いて

大野 佑介

12月9日、三崎町教会の階段を上ると、漫談のような軽妙な声が漏れてきていました。初めての東京バッハ合唱団のコンサート。漫談の正体は、団員の太田健二さんの会場も和む、ライブ感たっぷりの解説でした。

団員さんとのシングインとの事でしたが、前半の《マニフィカト》は、歌詞を目で追うのがやっとなくらいハイレベルでした。

指揮者の大村恵美子さんのどこまでも伸びていくような腕。その腕に呼応して、波のように打ち寄せる声と演奏でした。光野孝子さんのソロも素晴らしかったです。突き抜ける様なソプラノで、宇宙まで連れて行ってもらえた気分でした。

後半の《クリスマス・オラトリオ》は、まず、一緒に歌詞の朗読をしてから合唱でした。手を差し伸べるかのような歌声と演奏に、いつの間にか私も歌詞を口ずさんでいました。



■【上】 ゲスト出演の光野孝子さん (ソプラノ)

■【下】 指揮・主宰の大村恵美子 (いずれの写真も12月9日、三崎町教会。制作・提供パラビジョン=Youtubeより)

日本語で練り上げられた翻訳歌詞と、シングインというアイデアが、高尚で遠い存在に感じていたバッハという人を、ぐっと身近に感じさせました。素晴らしいコンサートを皆で力を持ち寄って創り上げられた気持ちになり、とても充実した時間でした。



◆月報バックナンバーは、当団HPからご覧いただけます。
http://bachchor-tokyo.jp/monthly_newsletter/index.htm

■「エマオへの道」ロベルト・ツェント, 1877.
ザンクトガレン美術館 (スイス)



「ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから60スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。……」

歌詞の内容となった物語は、新約聖書で「エマオ途上の弟子たちにイエスが現れる」などの見出しがつけられた箇所(ルカ 24, 13-35)で、レンブラントやティツィアーノといった多くの巨匠たちもこの場面を描いています。はなはだ個人的には、子供のころに日曜学校でもらったカードの絵柄(上掲)が印象に残っています。

「この一切の出来事」とは、イエスの捕縛・刑死・埋葬と連なった生々しい事件、さらに、週が明けて、墓を訪ねた婦人たちに起こった驚くべき事実(この聖書箇所の直前に語られる)の伝聞をも含んでいたかも知れません。

さて、この舞台設定を与えられて創作されたバッハ

【教会暦】 復活節第2日 (他に BWV 66)		
【使徒書】 行伝 10, 34-43 (ペトロ、コルネリウスの家で福音を告げる)		
【福音書】 ルカ 24, 13-35 (エマオ途上の弟子たちに復活のイエスが現れる)		
【成立】 初演 1725年4月2日、ライプツィヒ (再演 1727年4月13日か)		
【歌詞】 歌詞作者不詳。1) ルカ 24, 29。3-1) Ph. メランヒトンのラテン語教会歌 „Vespera iam venit“ のドイツ語訳 (1579)、3-2) N. ゼルネッカー „In dieser letztzn betrübten Zeit“ (1572)、旋律: „In dieser letztzn betrübten Zeit“ (Erfurt 1594、古聖歌に基づく) 【BCH 1】。6) ルター „Erhalt uns, Herr, bei deinem Wort“ (1542) 第2節、旋律: ラテン語讃歌 „Veni redemptor gentium (来たれ異邦人の救い主よ)“ に基づく (1543) 【BCH 34】。		
【上演用訳詞】 大村恵美子 http://bachsmusik.starfree.jp/bwv006.htm		
【編成】 独唱 SATB、合唱、オーボエ 2、オーボエダカッチャ obo、ヴィオロンチェロピッコロ vcp (再演時付加)、弦合奏、通奏低音		
【楽曲構成】	訳詞冒頭句/原詞冒頭句	編成(略語)/調
1. 合唱	Bleib bei uns, denn es will Abend werden とどまれ我らと 夕闇せまり	ob2, obo, str, bc ハ短調、3/4-2/2
2. アリア(A)	Hochgelobter Gottessohn, Laß es dir nicht sein entgegen 神のいとし子よ 受けたまえ	obo, bc 変ホ長調、3/8
3. コーラル(S)	1. Ach bleib bei uns とどまれ 主イエスよ 2. In dieser letzt' n betrübten Zeit お暗きこの時	vcp, bc Allegro、 変ロ長調、2/2
4. レチタティーヴォ(B)	Es hat die Dunkelheit an vielen Orten überhand genommen. 闇の力あまねく蔽いつくしたり	bc
5. アリア(T)	Jesu, laß uns auf dich sehen, daß wir nicht イエスよ 導きたまえ	str, bc ト短調、4/4
6. コーラル	Beweis dein Macht, Herr Jesu Christ, 主イエスよ み力を顕したまえや	ob2, str, bc ト短調、4/4 演奏時間約 25 分
【上演履歴】 1964 (#4)、1975 (#33)、1987 (#62)、1988 (独Ⅱ)、2024 予定		
【日本語版楽譜】 2000年、ISBN 4-925234-05-6 (1400円)		

のこのカンタータを、最愛の作品に掲げる方も多いのではないのでしょうか。当月報紙面でも幾度となく触れた記憶があります。

2本のオーボエにダカッチャも加わって、3人の重い歩みを想わせる序曲に始まりますが(第1曲・合唱)、これがなんとも美しい。主の復活から第2日目(教会歴：復活節第2日)の途上の弟子たちの「目は遮られていた」(ルカ24,16)からと書かれているとおり、本人以外の登場人物(やがて4声部で歌いだす他の弟子たちも含め)はまだ絶望の闇のなかにいます。〈とどまれ我らと/夕やみ迫り/陽は傾きたれば〉(同29節、訳詞)。弟子たちの不安と傷心は、見ず知らずの旅人にさえ継らざるを得ないほど深刻だった……。

第2曲・アリア(アルト)が、早くも舞曲の軽快さで〈留まれ み光よ〉と歌うのは、もちろん希望の根拠があるからであり、つづくソプラノの単旋律で歌われるコラル(第3曲)もアレグロの明るさで〈み言葉の光〉と、そのゆるぎない信頼を証しします。このコラル旋律も世界中で愛されています。

第4曲・レチタティーヴォ(バス)は、〈かくて み光は消え去りぬ〉と個人生活を厳しく戒め、つづく第5曲アリア(テノール)では、〈みことばの光よ 明るく輝け〉と主の導きを乞う。当作品を「光のカンタータ」と名付けたくなるゆえんです。

終曲のコラルは、これまたよく知られた中世以来のラテン語聖歌「いざ来ませ 異邦人の救い主(Veni redemptor gentium)」の旋律に、ルターの歌詞を載せたもの《み言葉もて生かし》の第2節。まったく信頼のなかに全曲を閉じます。

この作品(カンタータ第6番)をここで取り上げたのは、以下の理由によります。

われわれのバス団員・松尾茂春氏は、1970年代後半からのベテランですが、コンピュータ・プログラマーとしての現役社員時代から作曲にも勤しんでいらしたようで、退役後に一気に大曲を完成させ、2022年4月の日付のある楽譜を上梓なさいました。『キラキラ星変奏曲 Version 2.0 一主題と1+40の変奏で歌い奏でるイエス・キリストの足跡一』、これが曲名です。1230小節、142ページ、参考演奏時間約70分という超大作。

ご本人の希望もあり、また、一昨年創立記念祝会(2022/7/2)で、ほんの一部を披露させていただいた経験で、これは「ただものではない」と、団員一同が納得、いずれは団の公式な公演として取り上げてみようという機運が盛り上がり、「バッハのみを取りあげる」という60年の団の歴史で前例のないことですが、疑問の余地ない音楽の質とわれわれの長い友情とが、下記の特別演奏会の計画へと至りつかせたのです。

バッハ・カンタータのファンの集う当合唱団の周辺ですから、バッハもぜひ1曲、となり、上記変奏曲がキリストの「復活」で大団円を迎えることを考慮して、

お・た・よ・り

大村恵美子先生

御無沙汰いたしております。

おかわりなく、ご活躍のことと存じます。

先般、月報の9月号を拝読し、お手紙をと思っていたのですが、身辺落ち着かず、きょうになってしまいました【月報バックナンバーは、前ページ脚部URLを参照】。

特定の宗教を超えた信仰心ということで、大村先生のエッセイに接し、切に共感する次第です。でも、そこには音楽という大きな贈りものが支えとなっているのですね、とくにバッハという偉大な存在が。

ここ数年、コンサートにも伺っておりませんが、まことに申しわけなく存じますが、いつも月報でみなさまのご活動を見守らせて頂いております。

私と言え、すでに定年を過ぎてなお、窓際にて本作りに勤しんでおりますが(週3日勤務)、なぜか、やはりバッハに還って来るのですね。

それにしましても、敬服すべきは、大村先生をはじめとする合唱団のめざましいご活躍です！世界にも類を見ない多大な蓄積！まさしく日本の誇れる宝です！

佳いお年をお迎え下さい。

高梨公明 拝

2023.12.20

PS 今年絵本を手がけました。後輩が作ったバッハ本ともどもご高覧いただきますれば幸いです。

筆者：高梨公明氏は、団友で春秋社編集者。長年にわたり、多くのバッハ関連書籍を手掛けていらっしゃる。大村著『バッハ コラル・ハンドブック』(2011年)もその1冊。

このたび、同社で担当された絵本『えほん般若心経』(文・絵 前田まゆみ)を、後輩がたと編集された“バッハ本”『教会歴で楽しむ バッハの教会カンタータ』(那須田 務著)とともに、ご恵贈くださった。

その感動を引きつぐ作品として、このカンタータ《とどまれ 我らと》が選曲された、という次第でした。

千年の後には、バッハは忘れられても松尾作品が残っている、という預言者もいるほどです(?)。お楽しみに。

●東京バッハ合唱団特別演奏会(予定)

<日時会場> ①2024年6月8日(土) 荻窪教会、②同6月15日(土) 三崎町教会(2週連続で調整中)

<曲目> ・松尾茂春《キラキラ星変奏曲》全曲初演、
・バッハ《とどまれ 我らと》BWV 6、他

<演奏> 指揮：松尾茂春(自作)、大村恵美子(バッハ曲)、
オーケストラ：管弦楽団ARS(コレギウム・ハルモニア・スペリオレ・ジャパン)、オルガン：田尻明葉、独唱：
交渉中、合唱：東京バッハ合唱団

[了]

◆上演用歌詞対訳は、当団HPからご覧いただけます。
http://bachchor-tokyo.jp/japanese_words/index.htm

<連載随想>

退屈するのはいそがしい [35]

9 番目の芸術

安曇野閑人 大野 博人



フランス語に「第9芸術」(neuvième art)という言葉がある。ベートーヴェンの第九とは関係ない。

仏語の文章でときどきで出会うのだけれど、さまざまな芸術を分類したときの9番目のカテゴリーを意味する。この分け方の源は古代ギリシャにさかのぼるそうだが、長い間にかかなり変化している。そして、19世紀末くらいには、こんな感じでいったん落ち着く。

第1: 建築、第2: 彫刻、第3: 絵画・デザイン、第4: 音楽、第5: 文学、第6: 演劇・舞踊。

優劣の順序ではない。20世紀はじめには映画の存在感が高まると、それが第7として加わる。今日では、映画を「第7芸術」と記す文章は珍しくない。さらにテレビ・ラジオが第8に入った。

そして20世紀半ばを過ぎて第9が提案される。分類されたのは何か? まんがである。

この分類は公式なものではないが、かなり一般化されていて、仏文化省のサイトなどでも見られる表現だ。つまり、まんがは美術、文学、音楽などに連なる「芸術」としての地位を得ているのだ。ちなみにこの分類にはすでに第10も登場していて、それはビデオゲームとマルチメディアだそうだ。

フランスにもBD (bande dessinée) と呼ばれる連載漫画の歴史があり、それを想定した分類だったが、今や日本の「まんが」も第9芸術の相当な部分を占めることになっている。BDとはべつに「le Manga」という言葉も普及している。もうずいぶん前から、フランスの多くの書店には、日本のまんがの翻訳ばかりを並べたコーナーがあるし、図書館にも置いてある。有力紙ルモンドは先日、記者たちが選んだ2023年出版のおすすめ作品という記事を掲載していたが、選ばれた22作品のうち、4本が日本のまんがの翻訳だった。

もちろんフランスでも、親が子どもを日本のまんがから遠ざけようとする時代はあった。「下品だ」「商業主義的だ」「教育上よろしくない」など、理由も日本と似たようなものだ。しかし、ヨーロッパ最大のBD、まんがの祭典であるアングレーン国際漫画祭で、21世紀になって水木しげるや大友克洋の作品が受賞したところからle Mangaは「芸術」として認知されるようになった。それに今や、親たち自身がまんがに親しんだ世代である。

最近の優れた日本研究者など若い知日派、親日家たちが軒並み「日本に目を開くきっかけはまんがやアニメだった」というのを聞くにつけ、文化交流という点でのまんがの力をあらためて思わずにはいられない。



■パリ・サンラザール駅近くの大型書店で(撮影・解説とも筆者)

それどころか、まんがのフランスへの浸透ぶりは、私たちが想像する以上の段階に達しているらしい。フランスの出版社が日本のまんが家に直接フランス向けの作品を依頼したり、BDではなく「まんが」を描くフランス人作家が日本の雑誌でデビューを果たしたり。

というわけで、自分も関わっていることで恐縮ですが、まんがについてのこうした最近の話題を紹介する小さなシンポジウムを企画しました。開催の概要は以下のようになっています。よかったらのぞいてください。

【シンポジウム】

「まんが」にとってのフランス

日時: 2024年1月17日(水) 18:00~20:00

(受付開始 17:30)

場所: 日仏会館ホール

<https://www.mfjtokyo.or.jp/access-map.html>

形式: 来場(定員80名)

討論者:

キム・ブデン氏 (Ki-oon 東京オフィス代表)

ジャメル・ラバイ氏 (翻訳家)

デビエフ・ティボー氏 (翻訳家)

司会: 大野博人

<参加費> 一般は1,000円(当日現金支払い)

<使用言語> 日本語

○お申し込みは以下のサイトから

<https://forms.gle/8ikQ1y4s2N2d9rsYA>

(筆者: 団友・後援会員、元朝日新聞記者)